

# 東臼杵北部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年2月 東臼杵農林振興局  
（東臼杵北部農業改良普及センター）

## 目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
  - 1 「みやざき花の祭典2026」の開催
  - 2 令和7年度宮崎県農産園芸特産物総合表彰式でシキミ生産者が知事賞を受賞
  
- II 主な普及指導活動等の取組
  - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 2～5)
    - [総合プロジェクト関係]
    - [専門プロジェクト関係]
    - 1 【総合1】新規就農者等に対する個別支援
    - 2 【総合1】就農相談の対応
    - 3 【総合1】経営体支援センターによる地域コンサルの実施
    - 4 【総合1】認定農業者フォローアップ
    - 5 【総合1】労務管理及び農福連携研修会
    - 6 【総合2】稲作研究会の県外視察研修(大分県、熊本県、福岡県)を実施
    - 7 【総合2】沖田地区ほ場整備協議会の県外視察（熊本県）を実施
    - 8 【専門1】肉用牛繁殖生産者を対象に巡回支援を実施
    - 9 【専門3】たまねぎ極早生品種の調査
  - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 5～6)
    - 1 鳥獣被害防止柵設置者研修会
    - 2 農業経営指導士県北3地区合同研修会
    - 3 東臼杵北部地区女性農業者サポート協議会の研修会を開催～農地の相続に関する研修会～

# I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

## 1 「みやざき花の祭典2026」の開催

1月31日から2月1日にかけて、イオンモール宮崎で「みやざき花の祭典2026」が開催されました。

今年は、6年ぶりとなる品評会が前日の1月30日に開催され、県内全体で200点以上が出展されました。当管内からは、10点以上入賞することができ、管内花きの品質の高さを再確認することができました。

また、展示場では美しい花々に来場者が足を止めて見入る姿が見られ、即売会では長蛇の列ができるなど、祭典は大盛況となりました。



多くの来場者で賑わう展示場

## 2 令和7年度宮崎県農産園芸特産物総合表彰式でシキミ生産者が知事賞を受賞

2日、県庁本館講堂にて表彰式が行われ、北川町のシキミ生産者である小野敬通さんが花き共進会の経営部門で知事賞（優等）、併せて特別賞として「農林水産大臣賞」と「宮崎県農業協同組合代表理事組合長賞」を受賞しました。表彰式後は、知事と受賞者の意見交換会も行われました。

花き共進会においては、小野さんの経営内容や栽培技術に加えて、地域でのシキミ栽培技術向上への取組等が高く評価されており、今後、モデル農家として地域への波及が期待されます。



知事との記念撮影

# II 主な普及指導活動等の取組

## 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

[総合プロジェクト関係]

[専門プロジェクト関係]

### 1 【総合1】新規就農者等に対する個別支援

就農希望者および新規就農者4名に対し、以下の個別支援を実施しました。

①令和6年就農者（施設野菜）：JAにて収支計画の作成支援を行い、次年度事業の活用に向けたスケジュール確認や経営収支の助言を行いました。

②令和7年就農者（施設野菜）：NOSAIと連携し収入保険の制度説明や加入手続の案内を行ったほか、市と共同で5年後の目標を具体化した収支計画の作成支援を実施しました。

③令和8年就農希望者（施設野菜）：NOSAIと連携し研修先を訪問し、将来的な収入保険への加入に向けた制度の概要や必要手続について説明しました。

④令和4年就農者（露地花き）：現地で営農状況を確認するとともに、就農5年目を迎えるにあたり、計画の目標達成率の確認や認定農業者への移行に関する意向確認を行いました。

今回の支援により各対象者の課題整理が進み、経営発展への意欲が確認できました。今後も関係機関と連携し、早期の経営安定と定着に向けた支援を継続します。

## 2 【総合1】 就農相談の対応

2日、延岡市役所にて市の新規就農担当者及び移住支援担当者と連携して、就農希望者の相談対応を行いました。

相談者は県外在住で、Jターン後に果樹での就農を希望しており、就農までの流れをおおむね理解されていたため、延岡市内及び宮崎県内での果樹の栽培状況や経営状況について助言しました。相談者は就農に至るまでの複数の方法を考えており、市内で就農する場合についてより具体的にイメージできたようでした。

今後も関係機関と連携して就農者の要望に対応し、就農希望者の確保に努めます。

## 3 【総合1】 経営体支援センターによる地域コンサルの実施

JA延岡地域農業経営体支援センターの一員として、JAみやざき延岡地区本部とともに新規就農者1名の経営改善に向けたコンサルティングを行いました。

普及センターからは、新規就農者の現状を栽培面・経営面から確認し、就農後の状況の変化に応じた営農計画の修正と計画実現に向けた課題、改善方法に関する助言を行いました。新規就農者からは「客観的な現状の把握や、やるべきことの整理が進んだ」との声がありました。

今回把握した情報を項目別に整理した上で、3月に再度面談を行うことで、経営改善及び経営管理能力の向上を図っていく予定です。

## 4 【総合1】 認定農業者フォローアップ

経営改善計画5年目の認定農業者のフォローアップ巡回（園芸3件、水稻1件）を、関係機関と連携し実施しました。支援農業者の現状と5年後の目標を踏まえた上で、栽培管理や販売状況を含む経営状況を聞き取り、課題解決に向けた助言を行いました。その結果、経営改善に向けた対策が具体化され、経営改善への意欲を高めることができました。

作成した経営改善計画を基に農業者は認定審査後に認定を受け、次期認定農業者として今後の経営発展が期待されます。今後、認定農業者申請を行う農業者が適正な経営改善計画を作成できるように支援を行っていく予定です。

## 5 【総合1】 労務管理及び農福連携研修会

25日、普及センターにおいて、延岡市労働力確保対策協議会主催の労務管理及び農福連携の研修会が開催され、生産者及び関係団体が参加しました。

労務管理に関しては、鎌倉インダストリーの福田氏からオンライン方式で、1日農業バイトアプリ「デイワーク」を用いた採用管理についての研修が行われた後、南那珂農業改良普及センターの平田副主幹から県内でのデイワーク活用事例に関する講演が行われました。参加者にとってデイワークの導入に当たっての知識が深まったと思われ、今後の人材確保の一手段として地域への普及啓発が期待される内容でした。

また、農福連携に関しては、いちご観光農園を運営する節賀氏から、就労継続支援B型事業所及び延岡しろやま特別支援学校との連携による人材確保並びに障がい者の雇用創出と社会貢献活動に関する力強い事例報告があり、参加者への農福連携に関する理解が深まったと思われました。今後、地域生産者への普及啓発のきっかけとなることが期待されます。



研修会の様子

## 6 【総合2】 稲作研究会の県外視察研修(大分県、熊本県、福岡県)を実施

18～19日の2日間にわたり、稲作の生産技術向上を目的として、稲作研究会と延岡地区営農振興協議会作物部会、延岡市再生協議会との共催による県外視察研修が行われ、稲作研究会会員4名と関係機関4名が参加しました。

1日目は、大分県宇佐市の「株式会社 K. 945」を視察し、基盤整備を活用した水管理及び栽培体系の省力化の取組について研修しました。また、農研機構九州沖縄農業研究センターでは、管内で関心が高まっている乾田直播技術や麦の新品種の特長や栽培技術について研修しました。

2日目は、熊本県阿蘇市の「有限会社内田農場」を視察し、今後の米価の推移や経営戦略について、会員と熱いディスカッションが行われました。

今回参加した稲作研究会会員からは、「今後の技術や経営について改めて考えるきっかけになった」等の意見が多く聞かれました。

普及センターとしては、今後も最新情報を関係者と共有し、技術支援や経営支援等を行っていきます。



研修会

## 7 【総合2】 沖田地区ほ場整備協議会の県外視察（熊本県）を実施

24日～25日の2日間にわたり、沖田地区の農業振興を目的に沖田地区ほ場整備協議会の役員8名と関係機関3名にて、都市と熊本県熊本市、高森町の先進地を視察しました。

1日目は都市の農事組合法人きらり農場高木を訪問し、農地賃借の方法や取り決め、栽培品目の内容などについて意見交換を行いました。

2日目は熊本市の秋津飯野土地改良区で基盤整備の内容と裏作で栽培している小麦について、高森町の農事組合法人奥阿蘇くさかべでは導入機械などについて視察や意見交換を行いました。

参加者からは、基盤整備後に発生する土地の貸借や水稻裏作の栽培について参考になるとの意見や、小麦栽培に必要な基盤整備及び必要な農業機械などについて質問がありました。

今後、普及センターとしては、生産者の裏作栽培に関する疑問や不安がないよう、引き続き情報提供を行っていきます。



農事組合法人奥阿蘇くさかべの視察

## 8 【専門1】 肉用牛繁殖生産者を対象に巡回支援を実施

10日、25日に生産技術向上を目的に、管内の肉用牛繁殖生産者（5名）を対象として、関係機関と連携して巡回支援を行いました。

巡回では繁殖状況及び子牛の成育状況の確認等を行い、今後の飼養管理に関して助言を行いました。また、2名の生産者については、畜産協会の繁殖・出荷データを基に昨年の状況を振り返り、課題の抽出と課題解決に向けての対策について検討を行いました。

支援した生産者からは、「自分の経営状況を数字で把握することができてよかった」との意見が聞かれました。今後も関係機関と連携し、肉用牛繁殖生産者の生産性向上の支援を行っていきます。

## 9 【専門3】 たまねぎ極早生品種の調査

5日、新たな早生品種導入の参考とするため、普及センター、JA等の職員4名が大阪の種苗メーカー事務所と現地ほ場を訪問して、たまねぎ極早生品種の調査を実施しました。

近年、管内で主に栽培される極早生品種の種子不足が問題となっているため、リスク分散として複数の品種を導入することが望まれています。

調査した品種については早期出荷が期待でき、またメーカーからの種子供給も可能であることから、今後、部会役員との情報共有・検討を行い、次年度作で試験展示ほを設置する予定です。



大阪での極早生品種調査

## 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

### 1 鳥獣被害防止柵設置者研修会

7日、延岡市舞野町において、鳥獣被害防止柵設置者研修会が行われ、今年度に鳥獣被害防止総合対策交付金で被害防止柵を設置予定の北方町、舞野町の受益者60名が参加しました。

室内研修では、延岡市から柵設置における注意事項、農林振興局農畜産課から農林作物等の被害状況、普及センターから鳥獣被害防止柵の設置及び維持管理のポイントについて説明が行われました。その後、現地に移動し、柵納品業者から門扉の設置方法について、実演説明がありました。

近年にはないほど多くの受益者が参加し、柵設置の実演説明でも門扉だけでなくワイヤーメッシュの設置も教えてほしいといった積極的な発言も出るなど、受益者にとって非常に有益な研修だったと思われます。今後、柵の維持管理も含めて効果的な被害防止対策が進むことが期待されます。



研修会の様子

### 2 農業経営指導士県北3地区合同研修会

27日、門川町及び美郷町において、県北地域の農業経営指導士が一堂に会し、農業経営指導士の生産ほ場を巡回する現地視察研修や意見交換を通じて、農業経営指導士相互の資質向上及び親睦を深めるため、標記研修会が開催されました。この交流会は昨年度から始まり、2年目となります。

今回、2施設での現地研修が行われ、新門氏のトマトハウスでは、外国人材による労働力確保の取組について、山澤氏のきんかんハウスでは、きんかん輸出及び事業承継の取組を中心に現地研修が行われました。研修後には交流会も開催され、各指導士の見聞や経営への大きな刺激になったことに加えて、各指導士間の親睦が深まったと思われ、今後、各指導士の経営発展並びに地域での指導士の活躍が期待される内容でした。



研修会の様子

### 3 東白杵北部地区女性農業者サポート協議会の研修会を開催 ～農地の相続に関する研修会～

12日、普及センターにおいて、東白杵北部地区女性農業者サポート協議会主催の農地の相続に関する研修会が開催され、女性農業者7名が参加しました。普及センターは協議会事務局として講師の選定や派遣依頼、当日の研修会の運営等を行いました。

今回は、延岡市内に事務所を構える山之内司法書士及び延岡市農業委員会事務局の太田事務局長を講師に迎え、相続の考え方や実際に必要となる手続について学びました。参加者は講師へ積極的に質問し、「より詳しいことを学びたい」との声が多く聞かれました。

今後も女性の農業経営への参画や能力向上につながる取組の支援を行っていきます。